たちばな新聞

水谷山 寶清寺
たちばな会館

新春のお慶びを申しあげます

皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申しあげます

昨年も色々な事件や事故・災害があり、未だに苦しんでいる人が多くいらっしゃるものと思います。昨年のお会式の法話で、上記の色紙を示しながらお話をさせて頂きました。

色紙の言葉は、日蓮聖人が信徒からのお供物に対する礼状として書かれた「事理供養御書」の「月こそ心よ、花こそ心よ」とある一文です。**人は月を見て美しいと感じ、花を愛でて気持ちが和むのは、私たちにはすでに月は美しいもの、花は愛らしいものと感じる清らかな心があり、その心が月や花と呼応するからです。**

しかし、**人間は六根（六つの能力を有する器官）**即ち、眼（視覚）・耳（聴覚）・鼻（嗅覚）・舌（味覚）・身（触覚）・意（知覚）を持っており、**その六根により、我々が認識し思考するにあたり、我欲によって煩悩を起こさせ、八正道（我々の苦を滅に導く、八つの正しい実践徳目）**即ち、正見（正しい見解）・正思（正しい思惟）・正語（正しい言葉）・正業（正しい行い）・正命（正しい生活）・正精進（正しい努力）・正念（正しい思念）・正定（正しい精神統一）を妨げるのです。

そこで、**法華経法師功徳品に法華信仰の功徳として、「六根が清浄」（六つの汚れが除かれ心身ともに清らかになる）になり、八正道に入ると説いています。**日本では、登山の行者が金剛杖を手に持ち六根の不浄を清めるために、「六根清浄」と唱え念ずる習慣があります。又、「六根清浄」は「どっこいしょ」の語源とも言われています。

我々は、煩悩を起こさせる「六根」と「我欲」によって、「八正道」を目指した生活が妨げられているのです。

特に最近、悪い傾向として「感情移入」の傾向が強いように思います。

勤務していた学校の同期四人で喫茶店に入った時のことです。話しが一段落したとき、同僚の一人が壁の一枚の外国の田園風景の油絵を指して、この絵をどう見るかと問いかけた一人の同僚は「明るく癒やされる絵だ」と言い、もう一人は「殺伐とした陰気な絵だ」と言い、もう一人は「平凡な絵だな」と、同じ油絵なのにまちまちの感想だった。「明るく癒やされる・・」と言った同僚は、恋愛中であり、「殺伐とした陰気・・」と述べた同僚は、環境に合わず転職を考えていた。「平凡な・・」とぼそっと言った同僚は、不満こそ言わないが漫然と日々を送っていた同僚だった。

我々も社会の出来事に対して、自身のその時の感情が自分のルールとなり、判断し行動する事が多いのではないでしょうか。

また、我々は「真理の虜」になりやすい傾向があります。

これも、職員会議の席でのこと、会議で新任教員が意見を求められた。指名された新任教員が、「自分は間違っているかもしれない」と恐る恐る発言した。その意見に先輩教員から否定的な意見が出された、新任教員は遠慮がちに反論した。それを繰り返すうちに、新任教員は、「自分の考えの方が正しいのではないか」と思い始める。そして会議の終盤では、「自分の方が絶対に正しい」と確信に至り、明らかに発言の態度が変わっていた。このように、我々には、「自分が間違っているかも知れない」と思っていたことが、周囲から否定されると、「自分の方が絶対に正しい」と、自分の考えが「真理」であると思い、その虜になってしまう傾向がある。

我々には清らかな心がありながら、六根により引き起こされる「煩悩」と「我欲」に、「感情移入」と「真理の虜」の傾向が加わり、犯罪に走らないまでも、周囲の人間関係を悪くし、社会の混乱に繋がっているのではないだろうか。

その傾向を改善するにはどうしたら良いか。

書道の審査員をしていた頃、書道交流ツアーで台湾・香港を訪れた時のことですが、仲間に宝石商の方がいて、香港翡翠を買って帰りたいが一緒に行ってくれないかと誘われた。香港の宝石店を見て回ったが、店頭には偽物ばかりで良い品が見つからなかった。そこで、宝石商の方が、ある店で名刺を出して「自分は日本で宝石店を経営しているが、店頭には良い品がない。質の良いものはないのか」と尋ねると、奥に通されて、金庫から香港翡翠を出して並べてくれた。どれも素晴らしいものだった。買い求めた帰り道、**その人が、「本物だけを見ていると、偽物はすぐ分かるものですよ。偽物ばかり見ていると本物と偽物の見分けがつかなくなるものですよ」と言った言葉が未だに印象に残っている。**

新しい年に当たり、常に「本物」を見るように心がけ、「八正道」の徳目を意識した生活を目指したいものです。

日蓮聖人遺訓　第四十四

「主と師と親との三つの大事を説き給へり」（下山御消息）

主師親とは、お釈迦様に備わった三つの徳のことで、

「主」とは秩序、「師」とは知恵、「親」とは愛情を意味します。

お釈迦様は三つの徳を悟られ、世の中を安穏な社会へと導き、生きとし生けるものへ、この三徳を授けたいと願われました。

この御遺文は日蓮聖人が代筆して念仏の信仰をしていた日永の父親に出された手紙で、**お釈迦様の願いを素直に受け止め、三徳を備えたいと祈る姿が合掌であり、**親孝行のためにも正しい信仰が大切と結ばれ、この手紙により父親も入信することになりました。

仕職ひと口法話　第四十四回

今年一月から、「マイナンバー制度（国民総背番号制）が開始されます。昨年、国会で法案を審議する事を知ったとき、若い頃に読んだ文芸評論家の亀井勝一郎だったか、近代批評の確立者である小林秀雄の言葉か失念しましたが、**黒門町などの由緒ある地名が何丁目何番地に変更になった事や国民総背番号制の導入が検討されている事を受け、「黒門町と聞いただけでその町がどういう町かイメージできたのに、何丁目何番地ではイメージが浮かばない。また、個人個人に名前があるのに番号で管理するのは、意味の喪失であり個性の剥奪である。**」という内容だったように記憶している。

昨年、"過剰反応の社会"と題したテレビを見た。**クレーマーのクレームに対する企業側の過剰対応が、再びクレーマーの過剰反応を助長する**という内容で、平成二十四年に「昆虫」の写真が表紙の「ジャポニカ学習帳」から「昆虫」の写真が消え「花」の写真に変わった。理由は、教師や保護者から「昆虫が気持ち悪いから変えて欲しい。」といった要望によるものだとか。また、ビールのコマーシャルの「ゴクゴク」と美味しそうに飲む「擬音」がアルコール依存症を助長するとの理由で中止するなどの例が紹介されていた。**物質的に豊かさばかりが目立ち、人間の内面や精神面が置き去りにされている現代、あらゆる面で個性喪失の傾向が感じられる。個性を大切にするよう心掛けたいものです。**

日蓮聖人伝

「不退転の決意」

『清澄寺大衆中』という御遺文には、「虚空蔵菩薩の御恩をほう（報）ぜんがために・・・安房国東条郷清澄寺道善房の持仏堂の南面にして、浄円房と申す者並びに少々の大衆にこれを申しはじめて、其の後二十余年が間退転なく申す」とあります。

『聖人御難事』には、「安房の国長狭郡の内東条の郷、今は郡なり・・此の郡の内清澄寺と申す寺の諸仏坊の持仏堂の南面にして午の時に此の法門申しはじめて」云々と書かれております。

「虚空蔵菩薩の御恩」とは、清澄に御入山された時に、「虚空の如く智恵の蔵がある虚空蔵菩薩」のように、日本第一の智者となし給えと祈念し、その恩返しのために説法をしたとあります。

ここで、注目される一文は「其の後二十余年が間 退転なく申す」とあり、当初のお考えを一切変えることなく、不退転の決意で説法に挑まれたことです。

その不退転の決意とはどのようなものであったか『谷入道御書』には、「但（ただ）日蓮一人計り此の事を知りぬ。命を惜みて云はずば国恩を報ぜぬ上、教主釈尊の御敵となるべし。是を恐れずして有のままに申すならば死罪となるべし。設ひ死罪は免れるとも流罪は疑なかるべしとは兼て知ってありしかども、仏の恩重きが故に人をはばからず申しぬ」とありますように、聖人は自らの命を賭して、法華経弘経と衆生救済の決意を表明されたのです。

ひと冬越して花を咲かせます。冬の冷たい雨に晒されてもじっと我慢して咲く花は、牡丹のように艶やかではありませんが、可憐な花がぽつぽつと咲き始めます。

この詩は、松任谷由実さんの「春よ、来い」の歌い出しの部分です。

この詩に続き、「愛をくれし君の なつかしき声」「君に預けし 我が心は今でも返事を待っている」と歌われています。

沈丁花は秋に蕾をつけ、開花の時期は、二月中旬から下旬にかけてで、暖かい春が「もうすぐそこまで来ているよ」と告げるがごとくひっそりと咲きだします。

その香りは、秋の金木犀に劣らず、沈香のような芳香で、可憐な花とはうらはらに、存在感を示しています。

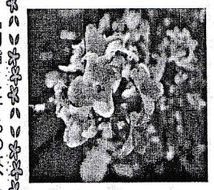
葉は月桂樹や丁子に似ており、沈香と丁子を合わせ持った花なので、沈丁花と名が付いたようです。

開花の時期にお越しの際は、探してみてはいかがですか。

宝清寺の草花

今回のお話は沈丁花です。

淡き光 立つ 俄雨
いとし面影の沈丁花
溢るる 涙の蕾から
ひとつ ひとつ
香り 始める



除厄星祭

節分には、厄除け（方位除け）と、星祭をおこなっております。

「厄除け」は、本年が厄年の方（下方図参照）と、八方塞の方はおこなったほうが良いでしょう。

「星祭」とは、人それぞれに星が配当されており、一年を通して注意した方がよい●の方と、◑と◑の（一年の前半か後半のどちらかに注意が必要）の方は、星祭をお勧めします。（左表参照）

受付は一月よりおこなっております。詳しくは宝清寺寺務所にご相談ください。

1歳・10歳・19歳 28歳・37歳・46歳 55歳・64歳・73歳 82歳・91歳・100歳	男 ●	羅睺星
	女 ●	計都星
2歳・11歳・20歳 29歳・38歳・47歳 56歳・65歳・74歳 83歳・92歳・101歳	男 ◑	土曜星
	女 ●	火曜星
3歳・12歳・21歳 30歳・39歳・48歳 57歳・66歳・75歳 84歳・93歳・102歳	男 ◑	水曜星
	女 ○	木曜星
4歳・13歳・22歳 31歳・40歳・49歳 58歳・67歳・76歳 85歳・94歳・103歳	男 ◐	金曜星
	女 ○	月曜星
5歳・14歳・23歳 32歳・41歳・50歳 59歳・68歳・77歳 86歳・95歳・104歳	男 ○	日曜星
	女 ◑	土曜星
6歳・15歳・24歳 33歳・42歳・51歳 60歳・69歳・78歳 87歳・96歳・105歳	男 ●	火曜星
	女 ●	羅睺星
7歳・16歳・25歳 34歳・43歳・52歳 61歳・70歳・79歳 88歳・97歳・106歳	男 ●	計都星
	女 ○	日曜星
8歳・17歳・26歳 35歳・44歳・53歳 62歳・71歳・80歳 89歳・98歳・107歳	男 ○	月曜星
	女 ◐	金曜星
9歳・18歳・27歳 36歳・45歳・54歳 63歳・72歳・81歳 90歳・99歳・108歳	男 ○	木曜星
	女 ◑	水曜星

星祭（九曜星）一覧表

厄年・八方塞（かそえ年）

厄　年…6歳・15歳・24歳・33歳・42歳・51歳・60歳・69歳・78歳・87歳・96歳

八方塞…1歳・10歳・19歳・28歳・37歳・46歳・55歳・64歳・73歳・82歳・91歳

編集後記

新年、あけましておめでとうございます。

ご尊家皆様が本年も、健やかにお過ごし頂けますように御祈念を申し上げます。

「一年の計は元旦にあり」と申します。皆様にとってどのような一年でありたいですか？

人それぞれにご計画や、ご希望が御座いますが、「安泰な一年」でありたいものです。

本年も神仏のご加護を頂けますように、心身ともに新たに、初詣に起こし頂き、安寧な一年をお過ごしいただけますようご参詣をなさってください。

ところで「初詣」とはいつまでの期間をいうのでしょうか。一説には、松の内（正月飾りをしている期間）と云われ、「一月中いっぱい」という説もあります。また、「大晦日から元旦にかけて」という説もあります。

しかし、大晦日は一年（旧年）が息災であったことへのお礼参りであり、そのまま年を越して「初詣」とするのは、なにか「ついで参り」のようで、私はいただけません。やはり「初詣」は、日を改めて伺うほうが良いのではないでしょうか。現代の人はなんでも簡便にしてしまいがちですが、自分の幸福を祈願するのに、手間暇をかけてもバチはあたらないはずです。また「初詣」は新神様をお迎えする大切な行事でもあります。

宝清寺は、花祭り（灌仏会）、お盆（盂蘭盆会）の施餓鬼法要、日蓮聖人のお会式を毎年盛大に厳修しております。このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養・月命日供養等も行っております。詳しくは寺務所までご相談ください。

発行・日蓮宗水谷山宝清寺
住所・東京都あきる野市小川一〇一
電話・〇四二一五五八一一六六三
FAX・〇四二一五五八一一六九三
インターネットホームページ
http://www.abauone-net.jp/housei/
メールアドレス
housei@ac.auone-net.jp

祈願・御供養

交通安全
商売繁盛
虫除け
方位封じ
開運祈願
安産祈願

日蓮宗の聖日

二月十五日	釈尊涅槃会
二月十六日	宗祖降誕会
四月八日	釈尊降誕会
四月十八日	立教開宗会
五月十二日	伊豆法難会
五月十七日	身延御入山
七月八日	本尊始顕会
八月十七日	松葉谷法難会
九月十二日	龍ノ口法難会
九月十八日	池上御入山
十月十三日	宗祖御会式
十月十一日	小松原法難会

寶清寺の年中行事

三月彼岸中日	焔魔供養
四月八日	花祭り
七月十五日	盂蘭盆供養
七月十七日	施餓鬼法要
九月彼岸中日	焔魔供養
十月十二日	お会式法要